



「なんでこんな事やらなきゃいけないの!?!」

神戸国際大学オルガニスト ミリアム 伊藤 純子

「面倒なこと」や「自分でなくても誰にでもできる仕事」は、誰にとっても日常の中でたくさんあります。そのような事柄と向き合うとき、つい「なんでこんな事…」という思いが浮かんでくるとはないでしょうか。私はその度に思い出す言葉があります。要約すると下記のとおりです。

「大人数の夕食の配膳準備を行う際に『なんとつまらない仕事。早く済ませてしまおう。』と機械的に仕事をしていた自分に対し、上司から『同じ並べるなら、食卓につく一人ひとりのために、祈りながらしたらどうですか。』と言われました。『つまらない、つまらない』と考えながら過ごした時間は、私の人生の中につまらない時間として刻まれ、『お幸せに』と願いながら過ごした時間は、同じ 30 分でも愛と祈りのこもった 30 分として残るのです。時間の使い方はそのまま、いのちの使い方であることを私は教えられました。私が変わりました。仕事に対して不平不満を抱くことがあった私が、少しずつではあっても、与えられた仕事を一つひとつ意味あるものとして、ていねいに向き合う私になってゆきました。雑用は、用を雑にした時に生まれるのです。』(渡辺和子氏著作『面倒だから、しよう』より)

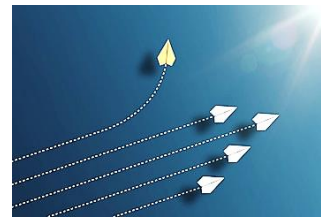
東京上野にある私の母校の今年の入学式の動画の中にも、有名アナウンサーによる次のような祝辞がありました。「(ご自身の体験から)たとえ自分にとって『やりたい仕事』ではなかったとしても、自分に求められることを行い続けることによって、やがて『大好きな仕事』になる。」

つまり、「嫌なことを我慢してイヤイヤ続ける」のか、「嫌だと思ったことに対する視点を変える」のか、この究極の選択(二択)によって、自分の人生が劇的に輝いてくるかどうかが決まるということになると思います。

もちろん、現実を変革しよう、現実から向上していこう、という気持ちは何より大切なものであると思っています。また、厳しい現実からしばし「休む」ということも必要でしょうし、イヤイヤ続けるくらいなら、潔くその場を去るという選択肢も視野に入れるべきです。

要するに、自分の中で「これを行う」と決めたのならば、もしくはこの現実からどうしても逃れられないのであれば、そこに自分なりの意味を見出す努力をしましょう、ということなのだと思います。

同じ事柄であっても、見る角度を 1 ミリだけ変えてみることに、日々の喜びが、そして人生が 180 度変わっていくということを、最近私は肌で実感しています。



< ひとくちメモ > ニーバーの祈り

「どうしても視点が変えられない」、「どうしても前向きに捉えることができない」、「この現実を受け入れるべきか現実から去るべきか、正解が分からない」、そのようなときのために、下記の祈りがあります。

神よ、変えることのできるものについて、
それを変えるだけの勇気をわれらに与えたまえ。
変えることのできないものについては、
それを受け入れるだけの冷静さを与えたまえ。
そして、変えることのできるものと、
変えることのできないものとを、
識別する知恵を与えたまえ。

(ニーバーの祈り 訳：大木英夫氏)

